

January 27, 2021

【前日の為替概況】ドル円、リスクオンの売りで 103.56 円までじり安

26日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反発。終値は1.2160ドルと前営業日NY終値(1.2139ドル)と比べて0.0021ドル程度のユーロ高水準だった。日本時間夕刻に一時1.2108ドルと日通し安値を付けたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。欧州株相場や時間外のダウ先物の上昇を背景にリスク・オンのドル売りが優勢となり、一時1.2176ドルと日通し高値を更新した。ただ、前日の高値1.2183ドルを上抜けることは出来なかった。「欧州中央銀行(ECB)は米連邦準備理事会(FRB)との政策の違いが為替レートに与える影響を調査する」との一部報道が伝わると、ユーロ売りで反応し一時1.2140ドル付近まで下押しする場面があった。米国経済の方が強いにもかかわらず、ドルが弱いことが疑問だという。

イタリアのコンテ首相は、閣議を開催し辞任する意向を表明し、マッタレラ大統領に辞表を提出した。大統領は27日に主要政党の党首らと今後の政局について協議する見通し。

ユーロ円は小反発。終値は126.00円と前営業日NY終値(125.95円)と比べて5銭程度のユーロ高水準。欧州時間に一時125.69円と日通し安値を付けたものの、売り一巡後はじりじりと下値を切り上げる展開に。欧州株やユーロドルの上昇につれた円売り・ユーロ買いが出て一時126.16円と日通し高値を付けた。ただ、ドル円の下落につれた売りも出たため、上昇のスピードは緩やかだった。ECBによるユーロ高調査報道も相場の重し。

ドル円は続落。終値は103.62円と前営業日NY終値(103.75円)と比べて13銭程度のドル安水準だった。欧州株や時間外のダウ先物の上昇を受けて、リスク・オンのドル売りが先行。0時過ぎに一時103.56円と日通し安値を付けた。ただ、一目均衡表基準線103.50円や22日の安値103.49円がサポートとして働くと下げ止まった。高く始まった現物の米国株が失速したこともリスク選好のドル売りを後退させた。

11月米ケース・シラー住宅価格指数や1月米消費者信頼感指数は予想を上回った一方、1月米リッチモンド連銀製造業景気指数は予想を下回るなど強弱入り混じる結果となったため、相場の反応は限られた。

【本日の東京為替見通し】明朝のFOMC声明やパウエルFRB議長会見控えて動意薄か

本日の東京外国為替市場のドル円は、明朝の米連邦公開市場委員会(FOMC)声明やパウエルFRB議長の会見を控えて動意に乏しい展開が予想される。

9時30分に発表される10-12月期豪消費者物価指数(CPI)の予想は、前期比+0.7%、前年同期+0.7%と予想されている。豪準備銀行(RBA)は、CPIよりも雇用統計を重視しているが、雇用情勢が改善している中で、CPIも市場予想を上回った場合は早期利上げ観測が高まる可能性に要警戒となる。また、中国が南シナ海で軍事演習を実施することで、地政学リスクへの警戒感の高まりも要注目となる。

明朝4時に米連邦公開市場委員会(FOMC)声明が発表され、4時30分からパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の定例記者会見が行われる。

今回のFOMCでは、現状の金融政策の維持が予想されている。すなわち、2023年までのゼロ金利政策(FF金利誘導目標:0.00-0.25%)継続、期待形成を持たせるフォワード・ガイダンス、月額1200億ドルの資産購入を行うバランスシート・ガイダンスからなる現行の金融緩和政策が維持される見通しとなっている。そして、パウエルFRB議長の会見では、1月14日の講演での発言「経済状況は依然として目標からかけ離れている。目標が十分に達成されるまで、大規模な緩和スタンスを変更する理由はない。利上げや量的緩和の縮小については当面ない」が再表明される見通しとなっている。

タカ派的なリスクシナリオとして、ワクチン接種によりコロナ禍が早期に終息した場合のインフレ懸念対応が想定される。現状のコロナ感染拡大の状況下では、トランプ米政権の「コロナウイルス支援・救済・経済保障法」(CARES法)による米国債増発とFRBによる国債購入の代金は、人々の銀行口座とウォール・ストリートに滞留している。しかし、コロナ禍が終息した場合、メイン・ストリートに放出され、消費の高まりがインフレ率を押し上げることになる。パウエルFRB議長は、「平均インフレ率2%目標」により、2%以上のインフレ率を当面容認する、と述べているが、テーパリング(資産購入の段階的縮小)時期などを巡る会見での質疑応答に要注目となる。

ハト派的なリスクシナリオとしては、パウエル第16代FRB議長の上司だったイエレン第15代FRB議長が第78代米財務長官に就任し、バイデン政権の包括的経済対策を巡り、低金利政策の維持を要請されたことで、米国債購入額の増額の可能性となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○14:00 ◇ 11 月景気動向指数改定値

<海外>

○09:30 ◎ 10-12 月期豪消費者物価 (CPI、予想：前期比 0.7%/前年同期 0.7%)

○09:30 ◇ 12 月豪 NAB 企業景況感指数

○16:00 ◇ 2 月独消費者信頼感指数 (Gfk 調査、予想：▲7.9)

○16:45 ◇ 1 月仏消費者信頼感指数 (予想：94)

○19:00 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演

○21:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数

○22:30 ◎ 12 月米耐久財受注額 (予想：前月比 0.9%/輸送用機器を除く前月比 0.5%)

○24:00 ◎ レーン欧州中央銀行 (ECB) 専務理事兼チーフ・エコノミスト、パネルディスカッションに参加

○28 日 00:30 ◇ EIA 週間在庫統計

○28 日 04:00 ☆ 米連邦公開市場委員会 (FOMC)、終了後政策金利発表 (予想：0.00-0.25%で据え置き)

○28 日 04:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長、定例記者会見

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

26日 05:34 マコネル上院院内総務(共和党)
「バイデン大統領の景気対策案は的を外している」
「景気対策は的を絞る必要」

26日 09:33 バイデン米大統領
「トランプ氏弾劾裁判で有罪に必要な票確保は望めないと予想」

26日 14:28 メルケル独首相
「新型コロナウイルスの感染管理は制御不能に陥った」

26日 15:13 麻生財務相
「足もとの財政、当面悪化するのは確実だろう」
「国債発行で金利が暴騰することも為替が円安に振れることもなかった」

26日 17:25 中国人民銀行総裁
「金融政策は引き続き経済成長を支援」
「中国のマクロ政策は雇用の最大化に焦点を当てている」
「輸出が今後も好調であると期待」

26日 18:06 黒田東彦日銀総裁
「最大限の金融緩和でも2%の物価目標達成できず、金融政策の限界があった」
「物価動向は貨幣的な減少、金融政策がインフレ・デフレ防止すべき」
「物価安定目標の実現近づけば緩和からの出口を模索する」
「日本の財政状況は極めて深刻、持続可能性を高めることが極めて重要」
「量的金融緩和、財政ファイナンスや国債買い支えのつもりはない」

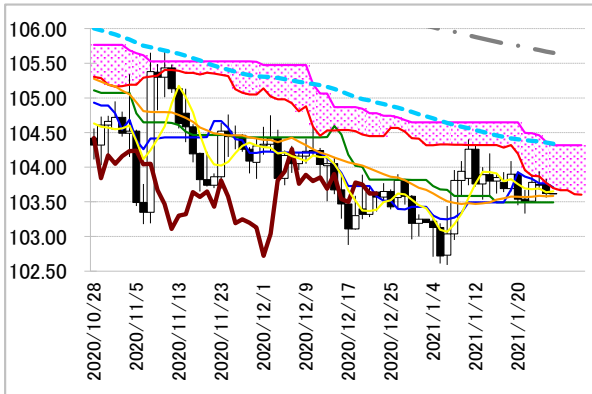
26日 18:50 スイス経済省経済管理局(SECO)エコノミスト
「21年第1四半期の経済成長率はマイナスを予想するが、第2四半期で改善すると見込む」
「景気は非常に速く回復する」

27日 00:55 ビルロウドガロー仏中銀総裁
「ECBの目標の下でインフレは一時的に2%を超える可能性がある」
「ECBはPEPPの柔軟性を含むすべての機能を備えて

いる」
「ECBの目標はインフレであり続ける」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

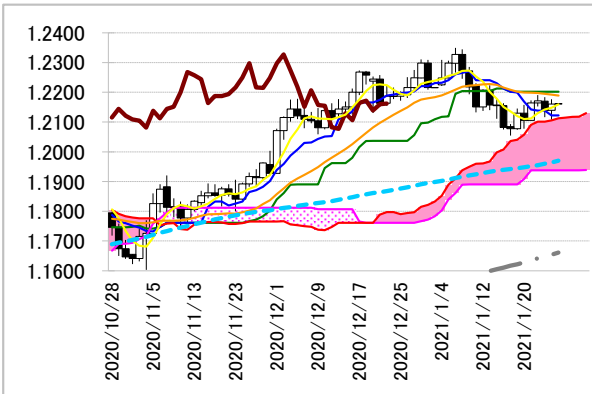


<ドル円=雲の上限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。遅行スパンが逆転し、転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	104.32(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	103.62
サポート1	103.33(1/21 安値)
サポート2	102.59(1/6 安値)

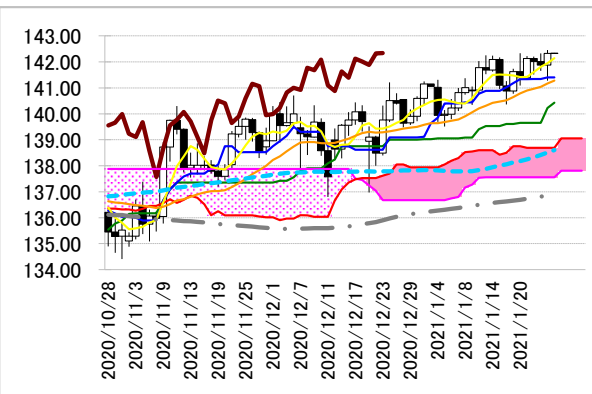


<ユーロドル=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。孕み線で転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.2202(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.2160
サポート1	1.2113(日足一目均衡表・雲の上限)

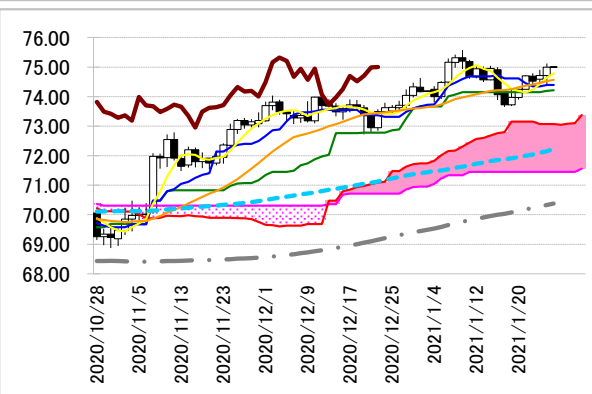


<ポンド円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。抱き線で転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	142.72(2020/9/1 高値)
前日終値	142.33
サポート1	141.41(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。2手連続陽線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	75.58(1/8 高値)
前日終値	75.00
サポート1	74.39(日足一目均衡表・転換線)

